



内定者の声

令和5年度入省予定
一般職自然系

はじめに

この度は令和5年度版『内定者の声』をお手に取っていただき、ありがとうございます。

この冊子は、環境省自然系職員(レンジャー)を志望する方々を主な対象として、令和5年度入省予定の一般職自然系内定者の内定に至るまでの体験談をまとめたものです。国家公務員一般職の試験や官庁訪問、勉強方法などについて記載しています。試験や官庁訪問の情報収集に不安がある方、受験を迷われている方、環境省の採用情報を手に入れにくい方などに情報を提供させていただきます。

『環境』は、私たち人間を含む全ての『生物』と密接に関係しています。

環境省自然系職員、いわゆるレンジャーは、この『環境』に関連した分野の業務(国立公園の管理、野生動物や生態系の保護・保全・管理、自然再生事業など)に携わります。この『内定者の声』を通して、環境省の業務にご興味を持っていただき、そして皆さまの進路選択の一助になることができれば幸いです。

令和5年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

※こちらの情報は令和4年度のもので、令和5年度以降の国家公務員試験、官庁訪問のスケジュールは、人事院や環境省のホームページでご確認ください。

目次

はじめに.....	1
基礎情報	3
内定者の概要	6
内定者情報まとめ	6
内定者ボイス・アドバイス編	7
内定者 A の場合	7
内定者 B の場合	10
内定者 C の場合	12
内定者 D の場合	15
内定者 E の場合	18
内定者 F の場合	21
内定者 G の場合	24
内定者 H の場合	27
内定者 I の場合.....	30
内定者 J の場合	33
内定者 K の場合	36
内定者 L の場合.....	38
内定者 M の場合.....	41
内定者 N の場合	44
巻末資料	46
おわりに.....	47

基礎情報

国家公務員一般職試験および内定までの流れ(令和4年度の場合)

注意 令和5年度以降は試験の日程が早まることが人事院から報告されています。

受験の際は日程を国家公務員試験採用情報 NAVI にてご確認ください。

日時	人事院	環境省	ひとこと
(令和4年) 2月1日～	国家公務員試験の受験 案内がHPに掲載		試験日程など内容をよく確認。
3月18日～ 4月4日	インターネットによる 受験申込受付期間		申し込みが必要。期日までに余裕を持って申し込もう。
6月12日	第1次試験(筆記)		服装は私服でOK。
6月下旬		環境省HPで官庁訪問 予約受付案内	
7月6日	第1次試験合格者発表	官庁訪問予約受付開始	【人】HPで確認。合格通知書はパーソナルレコードからダウンロード。 【環】環境省HPを事前に確認。希望の日時を記入したファイルを、訪問者カード(早めに準備するのがおすすめ)とともにメールで送る。試験日程や他省庁の官庁訪問日など、スケジュールをよく考えて申し込もう。
7月8日		官庁訪問1日目	対面面接。
7月11日		官庁訪問2日目	対面面接。
7月12日		官庁訪問3日目	対面面接。
7月13日～ 7月29日	第2次試験(人物)		人事院の面接試験。第一次試験合格通知書で指定の日時・場所で実施。
8月2日		官庁訪問4日目	対面面接。
8月3日		官庁訪問5日目	対面面接。
8月16日	最終合格者発表	採用内々定解禁 →最終面接の案内	【人】HPで確認。合格通知書はパーソナルレコードからダウンロード。 【環】採用内々定と最終面接の案内がそれぞれ電話とメールで伝えられる。
10月1日		最終面接 →内定通知書授与	最後の面接。

| 国家公務員一般職試験

・試験区分

環境省一般職自然系は、国家公務員一般職試験(大学卒業程度)で、「林学」、「農学」、「農業農村工学」、「土木」、「建築」のいずれかの試験区分から採用されます。試験内容、配点、出題分野等の詳細や最新情報については国家公務員試験採用情報 NAVI の受験案内をご参照ください。

(国家公務員採用情報 NAVI <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>)

・過去問の取り寄せ

各試験区分の過去問は人事院開示請求電子申請システムから入手することができます。
(人事院開示請求電子申請システム窓口 https://ssl.jinji.go.jp/kaijiseikyu/kaiji_index.asp)
請求する行政文書の名称等の「国家公務員採用試験の過去の問題」にて必要な問題を申請しましょう。

例)試験名:[一般職(大卒程度)]、試験の区分・請求年度:[林学 試験問題集 平成〇～△年度]

※当年度の過去問は試験実施日の翌日から開示請求できます。

※試験問題の保存期間は5年間のため、最大5年分の問題を入手できます。

※開示方法は「人事院地方事務所等での開示(閲覧、写し)」or「送付(写し、CDデータ(PDF形式))」から選択できます(CDデータがおすすめ)。

※過去問の取り寄せには下記のように時間がかかるので注意して下さい。

申請書送付 → (約1ヶ月後)開示決定通知、同封の申出書を送付 → (1～2週間後)
過去問到着

・試験内容

第1次試験では、基礎能力試験(多肢選択式)、専門試験(多肢選択式・記述式)があり、第2次試験では、人物試験(個別面接※参考として性格検査を実施)があります。試験に最終合格すると採用候補者名簿に記載されます。

｜官庁訪問

・官庁訪問とは？

国家公務員として採用されるには2つのステップを突破する必要があります。1つは前述の人事院が実施する国家公務員試験ですが、試験の最終合格のみでは「採用候補者」であり道半ばです。採用に向けて突破すべきもう1つのステップが官庁訪問と呼ばれる、各府省庁等が個別に実施する面接です。ここでは、環境省が行う官庁訪問について説明します。

・令和4年度自然系官庁訪問について

官庁訪問の予約

年度により実施時期や予約方法が異なる場合があるため、最新の情報を必ず確認してください。令和4年度の場合、6月中旬に環境省 HP(採用・キャリア形成支援情報 一般職自然系(大卒程度)※)上で予約方法が公開され、人事院の第1次試験の合格発表と同時に官庁訪問の予約が解禁されました。今年度はスケジュールが7月と8月の2つの期間で実施されており、それぞれで受付期間は異なりました。電子メールによる事前予約制で、面接実施日5日間のうちの第一・第二希望日ほか必要情報を指定のファイルに入力し、メールに添付して送信しました。

※ 環境省 HP はその後整理され、現在は「一般職自然系(大卒程度)」ページはなく、総合職とあわせて「自然系(総合職・一般職)」のページに統合されておりますのでご注意ください。

面接の形式

年度により形式が異なり、その詳細は受けてみないと分かりません。令和4年度の場合、いずれの日程でも環境省本省での対面面接で、1日に複数回の面接が行われました。なお、訪問者カード(環境省採用 HP から様式をダウンロード、3×4cm 写真貼付)は、官庁訪問予約時にメールに添付して送信しました。本省入館の際は「写真付きの身分証明書(学生証等)」が必要です。

｜参考サイト

試験や官庁訪問に関する最新の情報は人事院や環境省の HP でご確認ください。

○人事院 HP 国家公務員試験採用情報 NAVI

<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

○環境省 HP 採用・キャリア形成支援情報 自然系(総合職・一般職)

https://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_3all/index.html

内定者の概要

内定者情報まとめ

	A	B	C	D
試験区分	林学	林学	林学	林学
最終学歴	大学院卒業見込み	大学院卒業見込み	大学院卒業見込み	大学院卒業見込み
性別	男	女	女	男
併願先	林野庁, 地方上級	国家総合職, 地方上級, 民間企業	なし	国家総合職, 環境コンサル
専攻科目	森林資源管理学	海洋生物学	海洋生態学	森林生態学
インターンシップ	なし	なし	なし	なし
趣味	サイクリング, サウナ	生物観察, 音楽鑑賞	旅行, 紅茶淹れたり飲んだりすること	自然観察, ウクレレ
学生時代打ち込んだこと	研究活動, サークル活動	修論研究, 野外調査	フィールドワーク	森林調査, アルバイト

	E	F	G	H
試験区分	林学	林学	林学	林学
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒業見込み	大学卒業見込み	大学院卒業
性別	男	女	女	男
併願先	林野庁, 地方上級, 木材専門商社(民間)	地方上級	国家総合職, 地方上級, 民間企業	国家総合職, 地方上級
専攻科目	森林微生物学	森林生態学	人文地理学	魚類生理学
インターンシップ	なし	なし	なし	なし
趣味	マンドリン, 旅行	楽器演奏, 散歩, 音楽鑑賞	登山, 旅行, コーヒー	淡水魚飼育, フットサル
学生時代打ち込んだこと	離島巡り, 部活動(マンドリン)	部活動(オーケストラ)	部活動(山岳部)	部活動, 研究活動

	I	J	K	L
試験区分	林学	林学	林学	農業農村工学
最終学歴	大学卒業	大学卒業	大学卒業	大学卒業見込み
性別	男	男	女	男
併願先	地方上級, 市役所	なし	なし	国家総合職
専攻科目	林業政策学	環境科学	花卉園芸学	保全生態学
インターンシップ	なし	なし	環境省本省インターン(5日間)	なし
趣味	ドライブ, お酒	自然散歩, サイクリング, サウナ	ギター, ピアノ	国立公園巡り, 生き物探し
学生時代打ち込んだこと	アルバイト, サークル活動	やったことないことに 挑戦すること	オーストラリア留学(1年間)	フィールドワーク

	M	N
試験区分	土木	土木
最終学歴	大学卒業	大学卒業
性別	男	男
併願先	国土地理院, 関東地方整備局, 地方上級, 市役所	国家総合職
専攻科目	歴史地理学	環境地盤工学
インターンシップ	なし	阿蘇くじゅう国立公園で パークボランティア経験
趣味	旅行, アニメ, 小説	登山, 自転車一人旅
学生時代打ち込んだこと	陸上長距離	体育会ボート部

人事院主催の官庁合同説明会や、環境省主催の自然系WEB説明会に参加した人が多くいました！



内定者ボイス・アドバイス編

内定者 A の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士 2 年・男・24 歳

【参加した説明会・回数】自然系業務説明会 (WEB) : 5 回、説明会 (対面) : 1 回

【併願先】林野庁、地方上級

【試験区分】林学

【専攻科目】森林資源管理学

(2) 志望動機

国立公園の自然環境の自然とその地域の方々を結ぶ懸け橋になりたいと思い環境省を志望しました。父の影響で幼いころから自然環境に触れる機会が多く、自然の中でキャンプや登山をすることが大好きでした。そのため、大学では森林や自然環境について学び、自然環境の保全と地域社会との共生を実現したいという思いが強くなりました。そして、生物多様性の輪を広げる学生団体の創設に携わり、多くの行政、学生サークル、NPO、企業と関わりました。その中で地域の方々との意見交換や共同での自然保護活動を行い、自然環境の保全のためには人との関わり、相互理解が非常に重要であると学びました。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

初めに過去問演習を行い、時間配分や解く問題の順番などの戦略を立てました。その後、点数配分の大きい数的処理や判断推理を主に勉強し、試験 2 か月前は何度も過去問を繰り返し解きました。教養問題などはスマートフォンに対策アプリを入れ、空き時間に勉強するようにしていました。

●専門試験(多肢選択試験・記述試験)

専門試験は過去問から出題傾向がつかめるので過去3年分をはじめに解きました。過去問を解いた後に『森林・林業白書』と『林業実務必携』を参考に知識や用語、解説をコピーした過去問に直接書き込んでいきました。また、後で見返しやすいように出典とそのページ番号も書き込み、後の復習に役立てて勉強しました。繰り返し解くことで頻出問題が分かるので効率よく勉強できるようになると思います。

記述式については、対策はほとんどしませんでした。多肢選択式試験の対策が十分に行っていたため知識や内容で困ることはほとんどありませんでした。しかし、時間配分などで焦ってしまったので、本番と同じ時間制限で1度解く練習をしておけば安心して試験に臨めると思います。

●二次面接・官庁訪問

面接練習はあまり行いませんでしたが、面接カードの内容からどのような質問をされるのか推測し、想定質問をいくつも考えておきました。また、自分の考えを整理するために、想定質問に対する返答を書き出して、志望動機などをより明確にしていきました。そして、説明会で聞いた「環境省が必要としている人物像」を意識して自分の強みを組み立てました。

官庁訪問当日は、笑顔で話し、落ち着いた言動を心掛けました。面接官の方々はとても親身に話を聞いてくださったので、緊張することなく自分の考えを伝えることができました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

説明会やOBOG交流会など環境省の職員の方とお話する機会をなるべく作り、環境省を目指す理由を明確にしていました。また、実際に働いている方のお話を聞くことで勉強をするモチベーションにもなりました。勉強を始めた時期が遅かったので、いろいろな媒体で情報収集を行い、効率の良い取り組み方を考え、実践していました。

(4)アドバイス・メッセージ

国家公務員を目指す、周りの人が内定を獲得していく中でなかなか結果が出ず、焦りが生じることも多くあると思います。私も試験勉強と研究を並行して行っていたのでストレスがたまった時期もありました。そんな時には、旅行へ行ったり、運動をしたり、1度思いっきり遊ん

で休憩しても良いと思います！根を詰めすぎると周りが見えなくなり、良い結果に結びつかなくなってしまう。就職活動は大変なことの連続だと思います。しかし、あまり思いつめず、自然体で行動することが就職活動を成功させる秘訣だと思います。皆さんも就職活動を楽しみながら頑張ってください！応援しています！

内定者 B の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士 2 年・女・25 歳

【参加した説明会・回数】Web 説明会・6 回ほど、OB 訪問・2 名

【併願先】国家総合職、地方上級、民間企業

【試験区分】林学

【専攻科目】集団遺伝学

(2) 志望動機

幼少期から自然と関わることが好きで、漠然と自然環境や野生動物に関わる職に就きたいと考えていました。大学進学を機に全国各地での生活を経験し、多様な自然環境とそこに根付く人々の生活に触れたことで、レンジャーとして日本の自然環境保全に携わりたいと決断し、環境省を志望しました。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

総合職・民間企業と併願したこと、勉強をはじめたのが 8 月と比較的遅かったこと、専門試験の勉強に時間を割きたかったことから、予備校をオンラインで利用しました。数学が苦手なので、直前期は数的分野の演習を多めにこなしました。

●専門試験(多肢選択試験・記述試験)

対策専用の参考書がないので、森林・林学実務必携や森林白書を利用して知識をインプットしました。林学は専門外だったので、多肢選択試験はどの大問を選択するかを最初に決め

てしまい、その範囲に限定して勉強しました。記述試験は森林白書を繰り返し読み返すことで自然と対策できていたと感じます。

●二次面接・官庁訪問

人事院の二次面接では、面接カードに書いてあることについて浅く満遍なく質問されるので、質問してほしい内容に誘導するカード作りを心がけました。新卒対象のハローワークの方や親、友人にも読んでもらい、どのような文章でどんな質問をされるか想定しました。

官庁訪問では、過去の「内定者の声」やインターネットの情報を元に、どのような雰囲気か、どんな質問をされそうかを想定してある程度答えたい内容をまとめていました。それと並行して、自己PRや過去の経験、印象深かった思い出、環境省自然系職員の志望動機や熱意など、面接で使えそうだなと考えた題材は一通り整理していました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

一人で勉強しているとどうしてもだらけてしまうことがあったので、友人とビデオ通話を繋いで勉強するなど、環境に変化を加えるようにしていました。修士1年で受験を決めるまでにある程度の経験は積んでいたため、勉強の合間にOBの方に面談をお願いしたり、気分転換に性格診断ツールを使ってみたりしました。モチベーション維持のために、予定の都合がつきそうな自然系職員の説明会や座談会には参加するようにしていました。

(4)アドバイス、メッセージ

受験を悩んでいる方、特に基礎能力試験に自信のない方はできるだけ早い時期に筆記試験の勉強を始めておくことをお勧めします。私は残念ながら筆記試験は大の苦手で、対策開始が遅かったので苦労しました。修士論文研究も進めることができず、勉強しても勉強しても自己採点は上がらず、年が明けて周囲が内々定を獲得し始めても民間企業の内定はなかなかもらえず、そうこうしているうちに公務員試験シーズンに入り…と、今振り返ってみると右往左往していたなと思います。行動開始に早すぎることはありません。これを読んでいる皆さんには、是非余裕を持ったスケジュールで第一志望の内定を掴んでいただきたいです。皆さんのご健闘をお祈りしています！

内定者 C の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士 2 年・女・25 歳

【参加した説明会・回数】Web 説明会 6-8 回、座談会 1 回、OG 訪問 1 回

【併願先】なし

【試験区分】林学

【専攻科目】海洋生態学

(2) 志望動機

大学の学部時代に研究していたことがどちらかといえば基礎研究よりだったのですが、そのときの研究対象種について観察を繰り返すことで新たな発見につながるワクワク感が忘れられず、何かしらの調査に関わりつつ生態や自然を知ることが仕事に出来れば天職だなと考えるようになりました。それと同時に、自分がどう生きたいのかを顧みたときに、多くの人と関わって、少しでも視野や考えの幅を広げて、豊かだと思える人生になることが理想だなと考えるようになりました。そんな風に思いながら就活を始めたときに、環境省の HP を見つけて、私が思い描いていたまさに理想の職業かもしれない、と感じたのがきっかけだったと思います。

(3) 勉強方法

● 基礎能力試験

前年度の試験問題は、試験直前に模試代わりに使いたかったので 2 年前の試験問題を解いてみて、自分の実力を判断しました。国語と英語は手ごたえを感じたので、特に対策はしませんでした。数的処理と判断推理は問題数も多いですし、パターンさえ覚えればそれなりに点数を伸ばすことができると思ったので、基礎能力試験対策の大半はそれらに割きました。あまり試験時間をとれなかったのが全部網羅することは諦めて、特によく出ている単元に絞っ

て繰り返し解いていました。地理もできれば得点源にしたいと思い、通学時間に電車で YouTube の解説動画を見て理解・記憶するようにしていました。

●専門試験(多肢選択試験・記述試験)

・多肢選択試験

過去問を中心に勉強しました。これも全部網羅することは諦めて、7年分くらいの出題分野を自分で一覧にして、自分の興味と自分から見た問題の難易度から捨て問と得点源にしたい分野を決めました。林学は全くの初心者だったので、自力で解くことはせず、解答と白書や実務必携書を片手に正解文の理解と不正解文の不正解箇所を探して正しい知識をインプットするようにしていました。

・記述試験

特に対策はできなかったのですが、白書で課題として挙げられている点について自分ならどう対策を講じるかを考えるようにしていたことが役立ったのかなと思います。ただ、ぶっつけ本番だと、時間内に書ききれぬか不安で気が気でなかったので、時間配分や自分の書くスピードとかは予め把握しておいた方がいいように思います。後悔としては、環境関連の時事にもアンテナをはって正しい知識を持つようにしておけばよかったなと思います。

●二次面接・官庁訪問

自分で自信をもって言えるほどの長所がわからなかったため、仲のいい友達に連絡して自分の長所を聞きました(他人から言ってもらえると自信につながりますし、すごく嬉しくなるのでお勧めです)。あとは、気分転換に性格診断などをして自分の性格や強み(と信じた部分)を見つめなおしたりしていました。

志望理由や自分がどう貢献できるのかについては、Web 説明会で興味のある仕事内容や、取り組み、目指していることや、環境省の HP やパンフレットで心惹かれたフレーズなどをノートにとっていたので、それを見直して自分がなぜ環境省を志望するのかについて改めて考えました。筆記試験の勉強では忘れていた「どうしてもここで働きたい」という気持ちを思い出すことができたので、それらについて考えるのは個人的にはとても楽しかったです。過去に他の試験で会場に辿り着けなかったことがあったので、遅刻だけは絶対に避けようと思い、

前日に下見するようにしていました(方向音痴の自覚がある人には心の安心材料になるのでお勧めです)。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

試験勉強、研究、家族や友達との時間などのバランスをうまく取れる方ではなかったのも、時間がない！と焦ったときは何を一番大事にしたいのか、どんな結果になろうともどれを選択するのが自分にとって一番後悔が少ないのか、あるいはその結果を受け入れられるのかを考えて行動していました。

(4)アドバイス、メッセージ

研究でいっぱいだったことと、要領があまり良い方ではなかったことで、試験勉強時間が全然取れなくて、専門の受験勉強をできたのは2週間くらいでした(全く解けずに打ちのめされることに向き合うのが嫌で逃避していたせいもあります)。試験前日に前年度の問題を解いた際は、本当にひどい点数で試験から逃げたい気持ちでいっぱいでした。実際の結果も大して良くなかったですが、それでも諦めない限り可能性はあり続けるので、もし仮に試験勉強を始めるのが遅くて不安や焦りを感じても諦める必要はないと思います。私のやり方が参考になるかはわかりませんが、他の内定者の方々のやり方など自分に合うものを見つけて、後悔のないよう本番で力を出し切れることを願っています。

内定者 D の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程 2 年・男・25 歳

【参加した説明会・回数】Web 説明会、対面型説明会、オンライン職員訪問・計 13 回

【併願先】国家総合職(環境省・林野庁)、環境コンサルタント企業

【試験区分】林学

【専攻科目】森林生態学

(2) 志望動機

私には「自然環境の保全に貢献する」という目標があり、環境保全に関わる様々な主体との連携・調整業務に従事することでその目標達成に近づきたいと考え、環境省の自然系職員を志望しました。

私は、高等学校の生物教員から、フィールドでの植物観察や調査活動の経験を聞いたことをきっかけに、自然が好きになり、将来は自然に関わる仕事に就きたいと考えていました。大学 3 年次から森林生態学を学ぶ研究室に所属し、数多くのフィールドで森林調査に参加してきました。調査の中で、自然の素晴らしさを再認識する一方、人間活動による森林破壊や大気汚染の現場を目の当たりにし、環境問題の深刻さを実感しました。この体験を経て、素晴らしい自然を次世代に残していくために、自然環境の保全に貢献したいと考えるようになりました。調査活動の他、大学での学び、環境コンサルタント企業でのアルバイト、自然に関わる方々との交流など多様な経験を経て、自然環境を適切に保全・管理していくためには、環境保全に関わる国民や研究者、企業などの様々な主体が連携して保全活動に取り組むことが重要であると考えていました。環境省では、環境保全事業の連携強化のために様々な主体との調整業務に携わることができ、その中で自分自身の知識や技術を向上させ、自分の目標達成に近づけると考えたため志望しました。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

手始めに過去問を約5年分解いたところ、そこまで点数は悪く無かったので、専門試験と面接対策に時間を割きました。得意だった文章理解・数的処理は確実に点を取りたかったので、試験の2ヶ月ほど前から、毎日1～3問解いていました。試験直前には、時事対策の参考書を2周くらい読みました。

●専門試験(多肢選択試験・記述試験)

過去問を約5年分解き、おおよその出題傾向を把握しました。その後、頻出分野を中心に『森林・林業白書』と『森林林業必携』を熟読しました。読みながら、重要だと思ったところは蛍光ペンでマークをしたり、ノートに自分なりにまとめたりしました。試験直前は、マークした部分やまとめたノートを見て備えました。

●二次面接・官庁訪問

面接にはかなりの苦手意識を持っていたので、友人との面接練習だけではなく、大学の講座、キャリアセンター、自主ゼミ、ハローワークなどできるだけ様々な実践形式で練習することを心がけました。それでも、総合職試験の官庁訪問や民間企業の面接では、緊張して早口になったり、頭で考えていることをうまく言葉にできなかつたりしたので、一般職試験ではその時の反省点を踏まえて臨みました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

勉強のやる気がでないときは、国立公園や近所の公園に足を運び、自然観察などをして気分転換していました。

(4) アドバイス、メッセージ

提出物等のメ切りと体調管理には十分気をつけてください(一般職が第一志望なのに、出願が終わっていたという人もいます・・・)。質問の仕方やアドバイスが面接官役の人によって

全く違うこともあります。想定問答の幅が広がるので、複数の場で面接練習することをおすすめします。皆さんのことを心より応援しています！

内定者 E の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】大学 4 年・男・22 歳

【参加した説明会・回数】自然系採用説明会(Web) 1 回・OB 面談(Web)

【併願先】林野庁(一般職)、地方上級(林業職)、民間(木材専門商社、建材メーカー)

【試験区分】林学

【専攻科目】森林微生物学

(2) 志望動機

大学時代に 7 箇所の国立公園を訪れました。珍しい生き物や景色がある場所は、多くのガイド業者が集まり、その業者が率いる観光客で人が密集します。このような国立公園を複数目の当たりにしました。観光振興と自然保護の折り合いに課題を感じる中で、レンジャーの説明会に参加し、国立公園の利用と保全の推進を掲げる環境省に魅力を感じました。環境省の政策について更に調べると、動物駆除と愛護の対立や、保護区規制と経済活動の対立など、自然保護政策には様々な折り合いをつける必要があることを知りました。異なる立場の人々と関わりながら、納得いく着地点を見つけ、日本の自然を後世に残していきたいという想いが生まれ、環境省を志望しました。

(3) 勉強方法

● 基礎能力試験

試験の 7 か月前から勉強を始めましたが、本格的に勉強を始めたのは 4 か月前からでした。参考書は新スーパー過去問ゼミを使って、数的処理、判断推理、文章理解、資料解釈の科目を繰り返し学習しました。過去問を購入するのが遅かったため、2 年分しか解くことしかできませんでした。今考えると過去問は必ず早く入手して、出題傾向を把握してから参考書を使った方が効率的であると思います。

また、基礎能力試験は時間配分がかなり大事です。国家一般職の試験日を迎える前に、併願で2つ試験を経験しました。この経験により、時間配分をより意識して勉強するようになったので、他の試験も受けてみるといいと思います。

●専門試験(多肢選択試験・記述試験)

多岐選択は過去問6年分を分野ごとにノートに貼って解き、森林林業白書や森林林業実務必携を使って正誤箇所をノートにまとめました。森林林業実務必携は改定版よりも第1版の方が詳しく記載されているので、ゼロから林学を勉強される方におすすめです。また、森林計画学入門は簡易的に説明されているので、実務必携が難しいと感じる方はぜひ読んでみてください。記述試験は多岐選択対策で正誤箇所を言葉で説明できるようにしていたので、特に対策はしませんでした。

●二次面接・官庁訪問

大学のキャリアセンターを使い、色々な方に面接練習をしてもらいました。練習する上では、初めて話す相手に対して、伝えたい内容がわかりやすく伝わっているかどうかを把握することが大切です。様々な方と面接練習をすると、前の練習相手には伝わったのに、次の練習相手には伝わらないことがよくあります。伝わらなかった原因を探し、改善策を考えていくことで、どんどん質の高い面接を行うことができると思います。

また、訪問者カードは志望理由やアピールポイントをしっかり書いておくことをおすすめします。一人当たりの面接時間は意外と短く、訪問者カードに記載されたことを中心に質問されまです。私は訪問者カードに記載していないアピールポイントもいくつかお話したかったので、カードに書いておけば良かったと後悔しました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

自分はどのような人間であるか知り、自分の考えやアピールポイントを言語化することは意外と難しく、時間がかかると思います。私は民間企業の就活も行ったので、自分がどのような人間であるかを早い段階で知ることができました。また、環境省で働きたいという想いが一番であることも気づいたので、勉強のモチベーションにもなりました。研究室活動、民間企業の就

活、試験対策等、やらないといけないことが山ほどある時は、一週間の目標を立て、目標を達成できるようにしました。

(4)アドバイス、メッセージ

今振り返ると、就活をしていた時期は本当に心に余裕がありませんでした。しかし、周りの方々のサポートのおかげでなんとか乗り切ることができたと思います。自己分析と一緒に考えてくれた友達や、就活の情報を提供してくださった先輩、面接の練習をしてくれた大学の職員の方々の存在が非常に大きかったです。就活は多くの人と積極的に関わると、有益な情報を思いもよらないところで得られたりします。環境省を知ったのは、研究室の先輩とのたわいもない会話がきっかけでした。皆さんも人との出会いは大切にしてください。

最後になりますが、内定者の声を読んでくださりありがとうございました。ささやかながら皆様のご健闘をお祈りしております。

内定者 F の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】: 大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】大学4年・女・22 歳

【参加した説明会・回数】自然系 WEB 説明会(複数回)、公務研究セミナー、WEB 国家公務員ガイダンス、一般職官庁合同説明会、霞が関 OPEN ゼミ等々…環境省が主催または参加している説明会はできる限り参加していました。

【併願先】地方上級(林業職)

【試験区分】林学

【専攻科目】森林生態学

(2) 志望動機

幼少期から自然や生き物が好きで、将来はそれらに関わる仕事がしたいと思っていました。大学で学びながら守るべき豊かな自然環境を地域活性化に活かさないか考えていた際にレンジャーの存在を知り、レンジャーであれば国立公園での業務を通じて、地域の魅力である自然を守りながら適切な利用を推進することで地方創生を目指すことができると考え、志望しました。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

過去問や模試を解いてみて、時間配分を計算 & 問題形式に慣れることを意識していました。また、特に慣れが必要な数的処理では大学の公務員講座の教材を活用し、苦手分野の演習を行いました。

●専門試験(多肢選択試験・記述試験)

基本は過去年度の『内定者の声』にも記述があった、「過去問を解いて解説をノートにまとめる」方法で勉強しました。数年分解くと頻出箇所が分かるようになります。ただ個人的には、各政策や関連分野の繋がりを理解している方が大事なポイントが記憶に残りやすいと感じたため、出題問題に関連するテーマに関する『森林・林業白書』と『森林林業実務必携』のページを読み込むことに重点を置いていた気がします(比較対象がないため主観です)。最終的に過去問は5年分程度解きましたが、年度が古い問題はデータの値が最新のものとは大きく異なることがあるため、最新データを手持ちの白書で確認するのを忘れないようにしました。

専門記述は多岐選択の勉強をこなすことが対策に繋がりました。また、白書を読んで近年の政策の動向・トレンドを把握しておくことや、日頃から専門科目に関連する政策への問題意識を持つておくことが大事だと感じました。

●二次面接・官庁訪問

面接ノートを作成し、頻出質問の回答を用意していました。できるだけ多くの人に色々な視点から面接カード・ノートの内容を見てもらい、添削と思考整理を繰り返しました。官庁訪問の様子については、総合職の官庁訪問をした知人や先輩に質問しました。3年次から環境省自然系を第一志望に考え過ぎてきたため、書く・話す内容自体にはそこまで苦労しませんでした。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

レンジャーという仕事の存在を知り惹かれてからは、一途に情報収集を続けました。ですが時には浮気して他の省庁や県庁・市役所、民間企業のインターン・説明会に参加し、「なぜ自分は環境省自然系を志望するのか」を見つめ直すようにしていました。

また、ポジティブ思考をできる限り心掛けました。今行っていることすべてがレンジャーを目指す自分の成長に、そして入省後の仕事にも繋がるはず！と己に言い聞かせ、目の前のことに真剣に取り組むようにしていました。

(4) アドバイス、メッセージ

アドバイスというアドバイスをするのは恐れ多いので失敗談をお話ししようと思います。参考にできる箇所は参考にさせていただければと思います。

併願に関して、私は当初国家総合職も併願予定だったのですが、総合職一次試験前に新型コロナウイルスに罹患したため、受験せず終わりました。体調管理はとても大事だと感じました。

筆記試験に関しては、身の回りに「林学」で受験する友人が一人もいなかったこともあり、常に孤独とモチベーション維持に悩まされていました。一人で勉強していると不安に押し潰されそうになったので、長丁場の公務員試験を乗り切る工夫が必要だと思います。

官庁訪問及び人事院面接に関してですが、当初 7/7~13 で東京に滞在する予定だったところ人事院面接が初日(7/13)に指定されてしまい、面接会場も地元ではなく大阪だったため、急遽 12 日に東京・大阪間を梯子することになりました。人事院面接の対策は官庁訪問が終わってからでいいと考えていたため、面接カードは白紙。元々環境省がオンリーワンの第一志望だったこともあって、8 日に官庁訪問を終えた後は解放感と目先の焦りで他省庁どころではなく、結局官庁訪問したのは環境省のみになりました(土日の 9、10 日と 11 日は面接対策と観光に捧げました)。準備は早め早めがいいと思います。

振り返ると公務員試験期、特に官庁訪問直前期は、レンジャーを目指す自分を見失うことがないよう、お気に入りの某アーティストの某青っぽいタイトルの曲を狂ったように聴いていました。レンジャーを目指し公務員試験に臨む未来の皆さんは、きっとたくさん努力を積み重ねてきた状態であるはずです。積み上げてきたことが武器になります。レンジャーを目指す自分に自信を持って、最後まで走り抜けてください！皆さんのご健闘をお祈りしています！

内定者 G の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】大学 4 年・女・22 歳

【参加した説明会・回数】自然系採用説明会 (WEB) ・4 回

【併願先】国家総合職・地方上級・民間企業

【試験区分】林学

【専攻科目】人文地理学

(2) 志望動機

高校で山岳部に入ったことをきっかけに山好きになり、大学でも引き続き山岳部で活動していました。登山を通して原始的(に見える)自然の魅力を楽しむ一方で、そういった利用自体が山岳環境を損なう要因になってしまう、というジレンマの存在に気が付き、どう山に関わるのが良いのだろう、と漠然と考えるようになりました。そんななか、国立公園はレジャー的利用と自然環境保全の両方を目的としているのだということを知り、抱いていた疑問の答えを見つけられるのではと考え、国立公園の管理を担う環境省の自然系職員を志望するようになりました。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

幅広い分野の問題が出るため勉強時間に対する効果が薄いように感じ、また専門試験に時間を割きたかったため、あまり重点を置きませんでした。受験を考えた段階で 1 年分時間を計って解き、問題形式を把握し時間配分や解く順番を考えてメモをとっておきました。以降は専門試験の息抜き程度に判断推理・数的推理を中心に解いていました。

●専門試験(多岐選択試験・記述試験)

・多岐選択試験

過去問を解き、間違っている選択肢の記述を主に「森林・林業白書」と「森林・林業実務必携」を参考に直すという作業を行いました。その際出た部分にマーカーを引いておくとの分野が頻出するのかわかって良いと思います。文系なので始めは問題文を理解することすら難しいことも多かったのですが、繰り返すうちになんとなく雰囲気は掴めるようになってきました。

私は試験慣れのため総合職の森林・自然環境区分も受けたのですが、全くの専門外から勉強するならこちらの問題で勉強するのも効果的なように思います。問題は非常に似ていますが選択科目として分野ごとに分かれているため、少し頑張れば解けるようになる問題と捨てたほうが良い問題などの区別がつけやすく、効率的なのではと感じました。

・記述試験

過去問を参考に問題の予想をつけ、隙間時間に「森林・林業白書」を読むなどしましたが、正直対策は全く追いついていませんでした。早めに勉強を始め、付け焼刃でない知識をつける、というのが対策な気がします。

●二次面接・官庁訪問

併願先で既に面接を複数回経験していたため、比較的落ち着いて臨むことができました。短時間の面接で自分をしっかりと伝えるため、場慣れは重要だと感じます。あとは面接官の気持ちになって、訪問者カード等から何を読み取るのか、何を聞きたくなるのか、採用しても良い人材だと思えるのか、と考えるようにしていました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

HP やメール等、情報をこまめにチェックするようにはしていたかと思います。

(4) アドバイス、メッセージ

もし文系だったり、そうでなくとも全く試験内容に関わる勉強をしてこなかったりといった理由から志望をためらっている人がいれば、なんとかなる、とお伝えしたいです。試験はもちろん

ん満点を取る必要はなく、合計で合格点に届けば良いだけです。今から使える時間、自分の現状と合格点との差を考え、伸ばせそうなところを重点的に勉強してみてください。思ったよりも専門的な知識ばかりでなく、政策等、対策しやすいところも多いです。

就活全体に関して言うと、最初から選択肢を絞ってしまわず、いろいろ見てみると良いのではないかと思います。多くの選択肢を検討することで、自分だからこそ、この仕事だからこそ、ということを言語化できるようになり、面接のときも役立ちました。

正解があるものでもないですが、この冊子のなかのどこかに役に立つヒントがあれば良いなと思います。皆さまのご健闘をお祈りしております！

内定者 H の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】 大学院卒

【学年・性別・年齢】既卒・男・27 歳

【参加した説明会・回数】自然系採用説明会(W E B)・11 回

【併願先】国家総合職、地方上級職

【試験区分】林学

【専攻科目】魚類生理学

(2) 志望動機

幼い頃からの趣味である川遊びと大学時代に参画した環境教育活動をきっかけとして、大学院に進み、淡水魚と環境教育に関する研究を行いました。在学中のフィールドワークを機に自然環境の保全に関心を持つようになり、学会への参加や研究者との交流を通して、自然環境を守るには、その自然を利用する文化なども加味した上で対応する必要があること、利害関係者間の衝突が日本の自然環境の保全の足枷になっていることを感じました。そこで、研究者ではなく知見を活用した普及啓発や合意形成を通して、自然環境の保全に貢献できる職業に就きたいと考えるようになりました。

そして、職員訪問を通して、環境行政の最後の砦として各地で奮闘されているレンジャーの方々と出会い、環境省の一員として希少種の保全事業や国立公園の利用の推進、環境教育に取り組み、日本の自然環境を後世に残していきたいという思いが強くなり、環境省自然系職員を志望しました。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

公務員試験予備校のテキストを活用して、勉強をしていました。苦手な知能分野の勉強に多くの時間を割き、解法を覚えるまで繰り返し演習を行いました。また、週に一回は時間を計

って過去問を解くようにして、時間配分や解く順番などの戦略を立てることで、本番は落ち着いて問題を解くことができました。

●専門試験(多肢選択試験・記述試験)

・多肢選択試験

過去問 10 年分を入手し、『森林林業必携』と『森林・林業白書』を参考にしながらまとめノートを作成しました。まとめ作業を通して、出題傾向を把握することができます。まとめ作業が終わったら、過去問演習を行い、間違えた問題については別途まとめメモを作成し、入浴中など暇なときに見返して、記憶の定着を図るようにしていました。

・記述試験

過去問 5 年分の回答を、『森林・林業白書』を参考にしながら作成しました。記述試験も多肢選択試験と同様に出題傾向があるので、その傾向をもとに白書の出そうな箇所を重点的に読み込むようにしていました。

●二次面接・官庁訪問

面接カードは家族や友人、先生など添削をお願いし、推敲を重ねました。面接についてはもともと苦手意識を持っていたため、予備校やハローワークを活用して練習を行い、面接という非日常的な空間に慣れるようにしました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

勉強に集中できない時は趣味の水生生物の採取に没頭し、適度に息抜きをするようにしていました。

(4) アドバイス、メッセージ

とにかく環境省に入省するために必要だと思うことを全てやり切る気持ちで日々の生活を送ってください。私は時間があれば説明会に参加したり、職員訪問をしたりしていました。この行動こそが「なぜ環境省なのか」ということを自分の中で深めるきっかけとなり、官庁訪問の

際の自信や熱意を醸成し、納得のいく結果につながったと思います。みなさまにお会い出来る日を楽しみにしております。

内定者 I の場合

(1) プロフィール

【最終学歴・職歴】大学卒業(既卒)・民間企業勤務

【学年・性別・年齢】既卒・男・25 歳

【参加した説明会・回数】自然系一般職採用説明会(WEB)6 回、JOBトーク(WEB)1 回

【併願先】地方上級、市役所

【試験区分】林学

【専攻科目】森林政策学

(2) 志望動機

私は自然環境の保護や国立公園の管理、利用の推進に携わりたいと考え環境省を志望しました。

幼いころから田園風景や自然に囲まれて育ち、自然に携わる仕事をしたいと考えていました。大学では山陰海岸国立公園でのフィールドワークや関連講義を通して自然をただ保護するだけではなく、人がどうかかわっていくかが重要であることを学びました。

鳥取県の大山を訪れた際、国立公園満喫プロジェクトを知りました。自然や国立公園に携わるうえで施設整備という観点があることを初めて知り、国立公園の利用推進が地域活性にもつながることを知りました。

学生時代学んだことを生かし、そして自然環境や国立公園の保護と利用の両立を目指していきたいと考えています。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

学生時代に大学生協が主催していた公務員講座を受講していました。基本的には講座テキストや模試を中心に問題演習を進め、理解が不足している分野を大学受験用のテキスト等

を用いて復習していました。1つでも多くの問題に触れ、見たことのある問題を増やすようなイメージで進めていました。

私は英語を含めた文系科目が得意であったため、試験直前は苦手をなくすというより得意をひたすら伸ばすことに注力していたと思います。

また、数的処理や判断推理が苦手であったため、解説をお願いできる知人や友人を見つけることも勉強の一部であったと感じています。

●専門試験(多肢選択試験・記述試験)

専門試験は短期決戦で挑んでいたため、多肢選択試験と記述試験を同時並行的に勉強していました。林学系専攻であったため、基礎的なことは日々の講義が非常に役に立ったと記憶しています。

林学の専門試験はテキストがほとんど市販されておらず、学生時代も社会人時代も人事院から取り寄せた過去問題を中心に勉強していました。

大きな流れとしては、森林林業白書で現代日本の林業の流行を把握し、過去問題を解くというサイクルをひたすら回していた形です。森林林業白書や森林林業実務必携を辞書代わりに使用し、使用機械や林道規定等、参考書だけでは全く想像がつかない場合は YouTube で動画を見たり実際に林道までドライブしに行き道幅を測ったりして息抜きも兼ねた実地学習をしていました。

また、日々新聞を読みつつ林業や環境関連の記事を見つけて過去問題の問題を参考に作文するといった対策も記述試験・多肢選択試験に非常に役立ちました。

●二次面接・官庁訪問

本命の面接までできるだけ多くの場数を踏んで調整を繰り返していました。

まずインターネット等を利用して志望省庁の部署や担当業務を調べ、自分との共通点を探しました。それに沿ったエピソードを複数作成して1エピソードあたり1分～1分30秒を目安に話すことができるようにブラッシュアップしました。

実際の面接試験だけでなくハローワークや若者サポートステーションを利用して面接練習を繰り返し、自分が何をアピールしたいのか、話に矛盾が生じていないか、また当日どのような質問をされるかといったことの確認を徹底していました。

●内定までの過ごし方

社会人になってからの受験であったため、スケジュール管理を最も重視していました。

1日のモデルスケジュールを組み、それを目標に行動して勉強時間を確保する方法が私には合っていたと感じています。

また、中だるみ対策として絶対に試験対策を行う時間と全く勉強せず休憩する時間を明確に区分けすることでメリハリを生んで過ごしていました。

(4) アドバイス・メッセージ

できるだけ友人(知人)を作っていただければと思います。

試験対策を手伝ってくれる友人、息抜きに付き合ってくれる友人、思わぬ情報を与えてくれる友人と、多くの出会いは自分にとって必ずメリットになります。

受験は本番当日以外団体戦ですので適度に肩の力を抜きつつ仲間と過ごしていただければと思います。

ご健闘をお祈りしております。

内定者 J の場合

(1) 内定者プロフィール

【最終学歴】大学卒

【学年・性別・年齢】既卒・男・26 歳

【併願先】なし

【参加した説明会・回数】一般職合同説明会、自然系説明会・それぞれ1回ずつ

【試験区分】林学

(2) 志望動機

私は幼い頃から自然の中で過ごす時間が好きで、大学では主に環境科学を学んでいましたが、新卒では全く別の業界の民間企業に就職しました。社会人になると、次第にもともと好きだった自然に関わる仕事をしたいと考えるようになり、特に日本を代表する優れた風景地である国立公園を管理するレンジャーに興味を持ちました。その後転職し、環境省の任期付き職員やアクティブ・レンジャーとして働く中で、様々な背景を持つ全国の国立公園において、人と自然が持続的に共生する社会の実現に貢献したいと思い、志望しました。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

専門試験の方が基礎能力試験よりも配点比率が高かったため、あまり重視していませんでしたが、基準点を下回らないような対策はしました。「内定者の声」を参考に、得点の可能性が高そうな、文章理解(現代文)、判断推理、数的推理を中心に勉強をしました。実際の試験では時間が足りなくなってしまうため、実戦練習を多く積むことが大切かと思います。

●専門試験(多肢選択試験・記述試験)

多肢選択試験はしっかりと勉強をすれば点数を稼げる試験なので、多くの時間を割きました。具体的な方法としては、過去問を人事院から取り寄せ、年度ごとにまとめノートのようなものを作り、問題の不正解の選択肢について「森林・林業白書」や「森林・林業実務必携」を用いてわからない部分を調べ、正しい情報を書き出すという作業を行いました。似たような問題や同じ分野から出題されている問題も多いため、過去問5年分くらいを近い分野ごとにまとめるのも良い勉強方法だと思います。

記述試験は、実際の試験のように時間を計って練習をしました。試験当日は、自分の書きたい内容をメモ程度に書き出し、頭を整理した後に回答用紙に書き出すようにしました。時間との勝負になりますが、こうすることで比較的きれいな文章で回答することができたように感じます。

●官庁訪問

実は私は昨年度も受験をしていて、公務員試験は合格できましたが官庁訪問が不合格で、今年度2回目の受験で内定をいただくことができました。最初の受験のときは、自然と関わる仕事をした経験や野生生物に関する知識、環境省の方々との接点など、何も持っていなかったため、今となって考えると当然の不合格でした。2回目の受験の際は、環境省内で働いていたので、レンジャーとしてやりたいことや将来のビジョンを持っていました。面接対策としては、自分の思いをたくさん紙に書きだし、整理して端的に説明できるようにすることを意識しました。当日はリラックスして臨んでいただければと思います。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

「なりたい自分」をイメージし、自分の意思を明確にすることが大事だったのかなと思います。私がレンジャーを志したのは社会人になってからだったので、試験勉強や面接対策も仕事と同時並行で行っていました。そのような環境でもあきらめず頑張りが続けたことができたのは、絶対にレンジャーになりたいという意思を明確に持っていたからだと思います。

(4) アドバイス、メッセージ

私からは、内定までに自分がやってよかったことを二つお伝えしたいと思います。一つ目は、覚悟を決めて逃げ道を絶ったということです。私は逃げ道があると頑張り切れないというところがあったので、周りに環境省を目指しているということを伝え、頑張るしかないという環境を自分で作りました。そして、応援してくれる人が増えたことで、諦めず頑張り切ることができました。二つ目は、環境省の方と接点を持ったということです。インターンシップに行ってみたり、すでに社会人であれば採用情報を見て私のように組織に飛び込んでみたりするのもいいと思います。実際に働いている方々の話を聞くと、大変勉強になりますし、自分が持つイメージとの違いを確認することができます。また、そこで様々な経験ができたことで、面接で話せることが増えた点も良かったです。私の経験が少しでも皆様の参考になりますと幸いです。お読みいただきありがとうございました。

内定者 K の場合

(1) プロフィール

【最終学歴・職歴】大学卒業・民間企業勤務

【学年・性別・年齢】既卒・女・24 歳

【参加した説明会・回数】自然系業務説明会(web)・複数回、インターンシップ(本省)

【併願先】なし

【試験区分】林学

【専攻科目】花卉園芸学

(2) 志望動機

国立公園を通して、環境問題への関心を高めたいからです。大学を1年間休学してオーストラリアに旅へ出ました。そこで自然を生活の一部とした生活を送る人と多く出会い、週末や仕事後には国立公園へ行く、若者も友達とブッシュウォーキングに国立公園に行く、そんな姿を見て日本にも自然を身近に感じられるそんな場所の普及をしたいと考えるようになりました。

帰国してから様々な日本の国立公園を訪れてみると、そこには日本ならではの豊かな自然と絶景が広がっており、この場所の保護と利用の推進に携わりたいと強く感じました。自然の豊かさに触れられる機会を増やし、さらにはその経験が環境問題への関心が高まるきっかけに繋がることが目標です。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

私はオーストラリアから帰国後すぐの受験であった為、十分な時間を確保することができませんでした。そのため数的処理・判断推理に絞り、参考書を中心に学習しました。

●専門試験(多岐選択試験、記述試験)

留学中であった為、母に人事院より過去問を取り寄せてもらい学習しました。問題を解きながら不明点を森林白書で調べ、1冊のノートを作成しました。使用したものは過去問1年分と森林白書のみです。

●二次面接、官庁訪問

大学のキャリアセンターの方や友人に履歴書添削をしてもらい、自分がなぜこの職を志望するのかを深掘りし、自分の考えに芯を通すようまとめました。今まで自分が何をしてきたかの“過去”と、入省後何をしたいのかの“未来”に分けて考えるよう気を付けました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

私は官庁訪問で一度失敗した為、翌年再チャレンジをしました。その間本省のインターンシップへ応募し、自分が入省後具体的に何をしたいのかを考える機会をいただきました。実際環境省では現在、こういった取り組みがされているのかを知ることが、自分の目標を定めるヒントになったと思います。

(4) アドバイス、メッセージ

諦めず努力を続ければ希望は見えてきます。私の周りには環境省を受験した人もおらず、異国の山奥で電波を探し情報収集するところから始めました。1年目失敗して民間企業で働きながら再受験しましたが、内定をいただくことができました。どんな逆境でも自分がやり遂げたい目標や夢があれば、そこから今の自分には何が足りないかを導けるとと思います。悔いのないよう頑張ってください！応援しています！

内定者 L の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】学部 4 年・男・22 歳

【参加した説明会・回数】自然系採用説明会 (web)、合同業務説明会 10 回程度

【併願先】国家総合職

【試験科目】農業農村工学

【専攻科目】保全生態学

(2) 志望動機

国立公園の自然の保護と利用を通じて、生物多様性保全および地域振興に携わりたいと考えているため、環境省を志望しました。私は、幼少期からの自然体験や旅行を通じて、自然環境に魅了されてきました。一方、幼少期の頃から遊んでいた自宅近くの水田が宅地化され、身近に触れ合ってきた自然の消失を目の当たりにし、生物の住処を後世まで残さなければならないという使命感を幼い頃に覚えました。大学の実習等では、過疎化や高齢化などの課題を抱えている中山間地域に多く足を運びました。地域で引き継がれている農文化や地元の景色を誇りとしている力強く温かい人の心に触れ、人の繋がりの大切さを改めて感じさせられました。また、里山の自然環境や文化は、人が住み、生業とすることで紡がれてきたものであり、多くの人が自然に興味を持つきっかけを作ることが重要だと考え、環境省を志望致しました。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

私は、国家公務員試験の勉強を始めたのが 3 年生終わりの 2 月と遅く、平均点を越えれば良いと考えていたため、確実に取れるところだけを集中的に勉強しました。基礎能力試験では、得意だった数学は問題数も多いため力を入れ、文章理解は出たとこ勝負でやろうと思いい、問題の構造を理解する分のみ過去問で対策を練りました。また理科・社会科目について

は、過去問から要点をまとめ、時事をまとめている YouTube を見ていました。また、森林・自然環境区分で総合職試験を受験していたため、一般職の基礎能力試験についてはあまり時間を割かず、農業農村工学の専門試験の方に力を入れました。

●専門試験（多岐選択試験、記述試験）

・多岐選択試験

過去問を中心に得意なところを取れるよう対策をしました。三力については、不得意な構造力学以外に力を入れようと決め、平均点を超えるような対策を練りました。

また、農業農村工学必携の参考書から計算以外の暗記するべきところをかなり丁寧にまとめ、覚えました。何年分も過去問を解くと確実に点数が上がっていくと思います。

・記述試験

過去問を見ると、大方毎年同じ内容が出ているため、その問題に対して、食料農業農村白書ではどう捉えられているのかと、自分の考え方を整理し、擦り合わせ、本番はこう書こうという模範を作りました。

●二次面接&官庁訪問

大学のキャリアセンターで、基本的な面接のルールや模擬面接を何度も行いました。また、技術的なことについては、学科の教授方に見てもらいました。

また、環境省自然系や自然環境保全に関わりたいと思ったきっかけ等については、友達と何度も話し、自分の本心的なところを探しました。結果、本番の面接も柔らかい雰囲気ということもあるかもしれませんが、いきいきと楽しく話すことができました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

私は、勉強の息抜きで近くの公園などの緑がある場所で好きな昆虫を探したり、試験とは直接関係ない自然環境系のニュースを見たり、生き物が好きな友達と話したりと、自分の自然環境に対する熱意を何度も見つめ直し、醸成しました。また、一年生の頃の授業で国立公園について学んでから、国立公園を軸に旅行し、多くの国立公園に足を運ぶことを心掛け、もっとビジターセンターにこんな機能があったら良いのに、ここ整備されたら良いのになど考え

ながら遊びに行きました。また、説明会や環境省が絡んでいそうなイベントにも多く足を運び、なぜ環境省自然系職員になりたいかという思いを昇華していきました。

(4) アドバイス

多肢選択の試験結果について、基礎能力試験、専門試験どちらもギリギリ平均点を超えない結果でしたが、農業農村工学の最終合格をし、第一志望であった環境省自然系から内定を頂くことができました。試験で良い点数を取るに越したことはありませんが、それ以上に自分の経験や思いを面接でしっかり話すことが重要だと思います。また時間の無駄と思い、民間や他の公務員試験は一切受けず、国家総合と一般のみに絞り、官庁訪問も環境省のみ行くという背水の陣で試験に臨みました。本音は、環境省以外だと心から入りたいという気持ちにならず、もし内定等貰えても断りそうだなと思っていたことと、環境省から内定を頂けるという自信がなぜかあったからです。

最後に、自分がなぜレンジャーになりたいのか幼い頃の思い出や自然に関わりたいと思ったきっかけ等を思い出し、物語化できるよう自分の本心を見つめ直すと良いと思います！また、周りの友達や家族とたくさん話すことで見えてくるものもあると思います！

試験直前には、周りの友人は就活が終わり、自身の進路への焦燥感や不安に駆られることや論文の執筆等、様々な困難があると思いますが、最後まで諦めず、後悔のないよう全力で頑張ってください！

内定者 M の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】大学卒業

【学年・性別・年齢】既卒・男・23 歳

【参加した説明会・回数】自然系 WEB 説明会・1 回

【併願先】国家一般職(国土地理院、関東地方整備局)、県庁、市役所

【試験区分】土木

【専攻科目】歴史地理学

(2) 志望動機

大学では人文地理学の一分野である歴史地理学を専攻し、人と自然が織りなす景観の重要性と価値を感じました。そこから興味が広がり、国立公園と世界遺産の意義を学び、世界遺産検定2級を取得しました。地理学の研究では文献調査とフィールドワークを併用して行なってきたことから、デスクワークを行いながら、時には現地を歩いて自然・人・文化と交わる仕事に魅力を感じました。

また、体育会陸上競技部に所属し、チームの箱根駅伝出場と自己記録の更新を目標に4年間活動しました。大学2年からはプレイングマネージャーとして競技を続けながら、他の選手のサポートもしていくことで競技とは別の側面からチームに貢献できることに喜びを感じました。これまでは人を支えながら、自らも成長していくことを信条としてきましたが、今度は人と自然を支える仕事を通して、さらなる自己成長をしていきたいと考え、環境省自然系を志望しました。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

本格的に勉強を開始したのは試験半年前で、時間がなかったため、通信講座を受講して勉強しました。専門試験の内容が大学の専門とは異なるものだったため、そちらに多くの時間を割く必要がありました。そのため、基礎能力試験は効率よく得点できる教科を重点的に

勉強し、その他は大学受験で利用した科目を大まかにおさらいする程度にしました。基礎能力試験の勉強の9割は数的処理に使ったと思います。

●専門試験(多岐選択試験、記述試験)

・多岐選択試験

専門外の分野を一から学ぶにあたって、独学では限界があると考え、通信講座を受講しました。時間もなかったため、試験でよく出る分野に絞って対策できたことは本番に大きく役立ったと思います。土木区分は工学の基礎が20問、大学で学ぶ3力学(構造力学・水理学・土質力学)が10問、その他知識系科目で10問の配分です。私の場合は専門で学んでいない知識系科目は範囲が広すぎて対策が難しいと感じ、3力学に関しても応用問題が出たら解くのは難しいと考えていました。そのため、工学の基礎を重点的に勉強し、前半の20問の正答率を上げることを第一に考えました。また、3力学に関してはよく出る分野の公式を優先的に暗記しました。公式を覚えているだけで解答できる問題も一定数あるため、重要な公式は必ず覚えておく必要があると思います。

・記述試験

ほとんど時間が取れませんでした。どのような問題が出るのかは確認しました。本番では時間がない中で3~4問の記述をする必要があるため、焦りがちですが、問題に対する自分の結論をまず考え、その結論に繋げるための肉付けをしていきました。文章量というよりも、いかに論理立てて解答できるかが大切だと思います。

●二次面接&官庁訪問

面接官の質問の意図から逸れないように答えることを一番に心がけました。

面接カードの内容を基に想定問答も考えましたが、それにとらわれすぎず、あくまで面接官との対話を楽しみながら元気よく話すことを意識しました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

苦手な教科の勉強は始めるのが億劫になることもありましたが、そんな時は好きな教科を一旦勉強してやる気を上げてから取り組むようにしていました。

また、2日に1回ランニングすることを習慣にしていたので、外に出て運動することも気分転換になっていました。

(4) アドバイス、メッセージ

私は文系から土木区分を受験したイレギュラーなタイプですが、公務員は民間と違い、試験に合格すれば文系学部出身者でも技術系の職種に就くことができます。大事なのは自分がどんなことをしたいかだと思います。その覚悟が決まれば知識が全くない状態からでも努力次第でどうにかかります。もし、私と同じような境遇の方がいれば自分の夢や目標に向けてチャレンジしてほしいと思います。試験勉強と面接対策に研究や部活・サークルと大変なこともあると思いますが、皆さんが希望する進路に進めるようお祈りするとともに、環境省でお会いできることを楽しみにしております。

内定者 N の場合

(1) プロフィール

【最終学歴】大学卒業

【学年・性別・年齢】該当なし・男・23 歳

【参加した説明会・回数】自然系の説明会に7回ほど

【併願先】国家総合職

【試験区分】土木

【専攻科目】環境地盤工学

(2) 志望動機

人と自然が共生できる社会を作りたいと考え、志望しました。大学3年時に初めて山に登った時、息を呑むような景色に感動し、「この自然の美しさを未来に残したい」と強く思ったことがきっかけです。そこから、阿蘇のパークボランティアを通して、地元の方々とお話する中で、理想だけでは環境は守れないと感じました。行政が中心となって、地元の方や専門家等と連携し、人と自然が関わるような施策を実行することで環境が守られることを学びました。また、自身の専攻分野である土木の知識を活かして、多くの人に自然の魅力、感動を伝える環境整備を行い、自然保護の共感を広げたいと考えました。

(3) 勉強方法

●基礎能力試験

時間に余裕がなかったため、試験1か月前から、数的処理のみを勉強しました。友人が活用していた公務員講座の例題集テキストを3周して解き方を覚えました。

●専門試験(多岐選択試験・記述試験)

多岐選択試験は、大学の専攻と被っていたため、直前に公式を確認した程度でした。記述試験も特に目立った対策はしませんでした。土木で話題になっている分野をインターネットで調べ、知識を蓄えました。

●二次面接・官庁訪問

二次面接および官庁訪問は、面接シートの添削や面接練習を大学のキャリア支援担当の方に3回してもらいました。また、面接で聞かれたことに端的に答えられるように、想定質問集を作成しました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

不安な気持ちは多々ありましたが、とにかく趣味の登山や部活の手伝い等で体を動かしました。また、一人キャンプをするなど新しいことに挑戦していました。合格するか考えても結果は分からないので、最後の夏休みと思い、色々な経験をしたことがメンタル的にも良かったです。

(4) アドバイス、メッセージ

社会人は、人生のほとんどの時間を費やすので、自分が一番やりたいことをやるのが良いと思います。やりたいことの見つけ方は色々あると思いますが、私はインターネットで調べるだけでなく、自身の体験から見いだすことを大切にしてきました。具体的には、説明会に何度も参加して気になる質問をぶつける、環境省のパークボランティアに参加してレンジャーの役割を肌で感じる、地方環境事務所にアポを取って直接話を聞きに行く等、「就職活動は足で稼げ」をモットーに活動してきました。そのおかげで、レンジャーの仕事内容の深い理解につながり、官庁訪問では志望動機と熱意を堂々と話すことができました。

これを読まれている皆様も、就職活動で大変な時期があると思いますが、頭で悩むだけでなく、とにかく行動して、本心からやりたいと思えることを見つけて欲しいと思います。心より応援しています。

巻末資料

令和5年度入省予定の私たちが公務員試験の勉強の際に使用した資料・参考書をご紹介します。ぜひ参考にしてください。

〈基礎能力試験〉

- ・基礎能力試験過去問(人事院)
 - ・スーパー過去問ゼミシリーズ(実務教育出版)
 - ・公務員試験合格の500シリーズ国家一般職[大卒]〈教養試験〉過去問500(実務教育出版)
 - ・速攻の時事(実務教育出版)
 - ・畑中敦子ザ・ベストシリーズ(エクシア出版)
 - ・出たDATA問(東京アカデミー)
- 過去問中心の勉強がオススメです！時事対策は『速攻の時事』を使っている人が多かったようです。大学の公務員講座テキストや高校時代の教科書を活用している人もいました。

〈林学〉

- ・林学試験過去問(人事院)
- ・森林・林業白書(林野庁)
- ・森林・林業実務必携(朝倉書店)

〈農業農村工学〉

- ・農業農村工学試験過去問(人事院)
 - ・資格試験のための農業農村工学必携(農業農村工学会)
 - ・食料・農業・農村白書(農林水産省)
- 林学・農業農村工学では例年、過去問・白書・必携の3種類を使っている人が多いです！

〈土木〉

- ・土木試験過去問(人事院)
 - ・土木職公務員試験 専門問題と解答(大学教育出版)
 - ・高校の数学・物理の教科書
- 過去問に加えて、解説が丁寧に書かれている参考書を使うことをオススメします！

おわりに

内定者の声を最後まで読んでいただき、ありがとうございます。この冊子では、今年度の内定者の様々な動機や環境省レンジャーを志望した経緯等を紹介しています。この冊子に目を通し、環境省レンジャーを志望する際、何か参考にしていただけたら幸いです。

就職活動中は、民間企業の検討や論文の執筆、友人や家族の状況や試験への不安等、様々な苦難がやってきます。しかしながら、自分自身の可能性を信じて、最後までやり遂げたと思える程、努力した先にある将来は必ず明るいです。また、周りの人たちと雑談している中で、自分が本当にやりたいと思うこと・大事にしているものが明確になってくるとわれます。一人で抱え込まず、色々な人と本音を共有していると、面接でも自然体の自身の言葉が出てきて、上手くいくと思います。

国家総合職試験の日程の前倒しや近年の新型コロナウイルスの影響で官庁訪問の日程や実施方法が変更となっているため、来年度の受験を予定している方は、採用 HP をこまめにチェックされることをお勧めします。

最後になりますが、環境省レンジャーを目指す皆様と共に働ける日を楽しみにしております！

令和 5 年度環境省入省予定
一般職自然系内定者一同

※環境省について

環境省職員には総合職と一般職いずれも事務系、自然系、理工系の3つの職種があります。この冊子は令和 5 年度環境省一般職自然系職種区分の内定者が作成しています。採用に関する情報に関しては下記 HP を参照ください。

○環境省 HP

<http://www.env.go.jp/>

○環境省_採用・キャリア形成支援情報 HP

<http://www.env.go.jp/guide/saiyo/index.html>